

平成 25 年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業 調査研究報告書

福島県二本松市木幡地区水舟集落の地域活性化策について

宇都宮大学 里計画研究会

2014 年 3 月

目次

I 研究会の概要

II 水舟集落の概要

III 水舟集落の課題と魅力

1. 2014 年度活動結果
2. 水舟集落の課題
3. 水舟集落の魅力
4. まとめ

IV 活性化策の提案

1. 集落全体で集まる場所や機会を作り集落に対する意識向上を図る
2. 地域資源を活かし、観光客を呼び込む新たな産業を生む
3. まとめ

謝辞

I 研究会の概要

私たち「宇都宮大学里計画研究会」は宇都宮大学建築計画研究室に所属する学生 5 名により構成されている（表 1）。私たちが所属する研究室では、従来から主に中山間地域を対象にした住民参加型の地域コミュニティに関する計画策定を手がけてきており、東日本大震災後は岩手県三陸漁村被災地の復興支援にも携わっている。産業停滞と少子高齢化に悩み、加えて震災の影響が大きい福島県下の過疎・中山間地域に対していくばくかの支援ができればと考え参加させていただいた。

II 水舟集落の概要

我々宇都宮大学里計画研究会が今年度活動をおこなった福島県二本松市木幡地区水舟集落（以下、水舟集落と称する）の概要を記載する。

水舟集落は、福島県の中通り北部に位置し、県都福島市と中核都市郡山市との中間に位置する福島県二本松市木幡地区に属する（図 1）。水舟集落は 4 つの小字からなる集落であり、人口は 104、世帯数は 34 世帯の小規模な集落である。また、アンケート回答者のうち 55 歳以上の人口は 64（62.1%）と準限界集落¹に該当する。その他、人口や世帯の詳しい情報については「2-2. 少子高齢化と集落の担い手について」に後述する。

次に主な産業についてみると、アンケートにて職業を農家と回答した世帯は 33 世帯中 14 世帯（42.4%）であり主な産業は農業である事が分かる。また、主な作物は、稲、エゴマ、ソルムラサキ、大豆、エンドウなどである。



図 1. 水舟集落の位置

- 1) 準限界集落…社会学者大野晃が平成3年に提唱した概念。55歳以上の人口割合が50%以上の集落を指す。現在は共同体の機能を維持しているが跡継ぎの確保が難しくなっており、限界集落の予備軍となっている状態である。

Ⅲ 水舟集落の課題と魅力

1. 2014年度活動結果

我々宇都宮大学里計画研究会が今年度福島県の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を受けおこなった活動は表1の通りである。

表1. 2014年度活動スケジュール

日付	内容
2013年8月23～24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落代表と調査打ち合わせ ・ 住民へのヒアリング調査 ・ 集落のフィールド調査
2013年10月	15日 住民へのアンケート配布 22日 アンケート回収 (回答数：103/104人 33/34世帯)
2013年11月2～3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民へのアンケート結果報告会 (ワークショップ、住民交流会) ・ 集落のフィールド調査
2014年1月31日～2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民への年間活動報告 ・ 地域づくりオープンカフェでの発表

1-1. ヒアリング調査について (写真1)

ヒアリング調査は今後の活動の糸口を探すため、2013年8月23～24日に集落の代表と集落住民に対しておこなった。集落の歴史や文化、住民の生活全般についての質問をおこなった。過疎化や、近隣関係の希薄化が進む現状が見受けられた。



写真1. ヒアリング調査

1-2. フィールド調査について (写真2)

フィールド調査は夏(2013年8月23～24日)と秋(2013年11月2～3日)の2度おこなった。両



写真2. フィールド調査

フィールド調査において、農業風景あふれる環境や、見はらしのいい景色等を多数発見した。発見された地域資源については、「3. 水舟集落の魅力」に後述する。

1-3. アンケート調査について（写真3）

アンケート調査は、2013年10月15日に住民へアンケートを配布し、同月22日に回収した。質問項目は添付資料1・2の通りであり、集落の住民の世帯構成や職業等の基本情報、ヒアリング調査で明らかになった現状に対する解決策、一般的な活性化手法等、活性化の糸口になる事柄に対しての関心を世帯と個人に対しておこなった。回答数は、世帯アンケート 33/34 世帯（97.0%）、個人アンケート 103/104 人（99.0%）である。

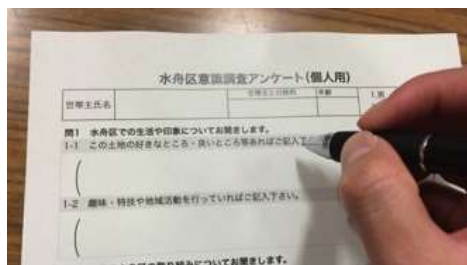
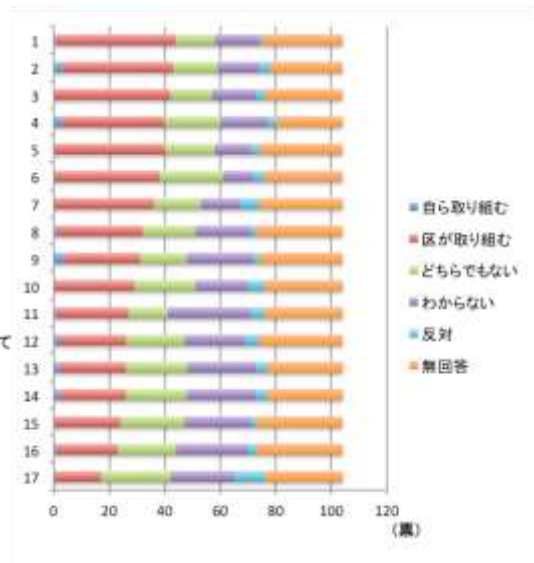


写真3. アンケート調査

アンケート結果より、少子高齢化の現状や高齢者世帯の問題等が明らかとなった。詳しくは「2-2. 少子高齢化と集落の担い手について」に後述する。また、個人アンケートにおいて尋ねた今後の取り組みに対する意識調査（図3）では、「地区全体での獣害対策」、「運動場・体育館の整備」、「歴史的な環境の整備」といった順に関心が高い事が見受けられた。それらの回答を年代別に見てみると、各年代で関心の高いものに多少の違いが生じていた。特に20代以下の「新規就農者の受け入れ・支援」と「体験 農業の受け入れ・支援」、30～40代・80代以上の「祭り・イベント等の開催・復活」は全体の結果に比べ、高い関心を示している事が分かる。また、20代以下の取り組みに対して「賛成」への回答数が全体の平均に比べ高い事から、若い世代の取り組みへの意欲が高い事がわかる。しかしながら、すべての質問項目において意向に大きな差は無かった事、また「自ら取り組む」と回答した人が著しく少なく最も多い項目であっても4人に留まった点、「集落が取り組むならば賛成」の回答者数が全項目において最も多い等、集落が抱える問題に対して自ら積極的に取り組む姿勢が弱い現状が明らかになった。また震災による影響、困った事を自由記入で訪ねたところ、9世帯が放射能・風評被害について回答し、加えて「生産意欲の後退」や「自身で消費する事に対しての恐れ」を訴える人も見られた。

- 1.地区全体で獣害対策を行う事について
- 2.運動場・体育館を整備する事について
- 3.鐘つき堂・鹿沙門堂などの歴史的な環境を整備する事について
- 4.特別養護老人ホーム等が地区内に建設される事への関心について
- 5.高齢者の集える場を設置する事について
- 6.景観の良い場所に休憩所を設置する事について
- 7.道沿いに桜の木を植えるなどの景観を開発する事について
- 8.絶滅が危惧される伝統・技術を伝承していく事について
- 9.農作物放射能対策のための実験ほ場の活動を行う事について
- 10.耕作放棄地を共同で利用する事について
- 11.空き家の新たな活用にについて
- 12.祭り・イベントなどを開催・復活し、子ども達が戻ってくる機会を設けることについて
- 13.リンゴ・ブドウなどの特産物の開発について
- 14.耕作放棄地の新たな活用にについて
- 15.新規就農者の受け入れと、その支援を行う事について
- 16.体験農業の受け入れと、その支援を行う事について
- 17.民宿業を始める事について



1-4. アンケート結果報告 図2. 今後の取り組みに対する意識調査 会・ワークショップについて (写真4)

アンケート結果報告会では、アンケート結果の報告後、ワークショップや交流会がおこなわれた。本会には、37人(35.6%)が参加し、近年集落における最も大きい規模の活動となった。



写真4. アンケート報告会

ワークショップでは、風評被害や、集まる機会の廃止からくる住民関係の希薄化、耕作放棄地、獣害被害等の集落が抱えるネガティブな側面につ

いての意見が聞かれた一方、当会の様な集まる機会への感謝や今後の集まる機会への提案、街路の美化等のポジティブな意見も聞かれた(表2)。

表2. ワークショップでの主な意見

ポジティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・集落全体で集まる機会を設け、イベントなどを行いたい。 ・若い人とコミュニケーションをとりたい。 ・グランドゴルフと芋煮会を一緒にやると若い世代もくるのでないだろうか。 ・景観を向上させる。 ・集落内、数ヶ所を決めて花壇などを整備。作物(フキ)・花・木(桜)等を植えて共同で手入れ管理をする。 ・イチゴを道路脇に植えて、誰でも食べられるように。また道路脇を赤くする。
ネガティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・集まる機会がない。 ・若い世代のネットワークがない ・作物を作る事ができるが、風評被害で売れない。 ・イノシシが多くて困る。

1-5. 年間活動報告会について（写真 5）

年間活動報告会では、当研究会が「学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」を受けおこなってきた前述活動の報告と、今後の活性化提案をおこなった。また、住民との意見交換や来年度の活動検討をおこなった。



写真 5. アンケート報告会

改修提案や散策マップに対しては、来年度の実施に向け、住民からより積極的かつ具体的な意見が寄せられた。一方で農家民泊に対しては、魅力を感じながらも、自ら実施する事には未だ慎重な姿勢が見受けられた。

2. 水舟集落の課題

2-1. 集落への意識の低下、住民関係の希薄化について

集落の現状把握を目的として行った住民へのヒアリング調査やアンケート報告会の場において、集落で集まる行事が基本的に行われていない現状が明らかになった。現在行われている集落活動は主に小字単位でおこなうものであり、集落というよりも血縁関係での集いである。そのため、アンケート報告会が近年おこなわれた行事の中で最も多い参加者数となり 37 人（35.6%）であった。また、アンケート報告会の場では、「初対面の住民に会った。」「久しぶりに会った。」という声等も聞かれ、関係の希薄化を象徴する光景がみられた。原因として、子どもの減少により平成 3 年まで集落の中心として存在した小学校が廃校になった事が挙げられる。廃校前は、小学校の運動会が集落の全住民が集う場であったが、廃校後は運動会も廃止になった為その機会は失われた。加えて、集落に子どもが多かった頃は子供を中心としたお祭りや花火大会などの行事がおこなわれ、住民が集まる場となっていたが、これらの活動も子供が減り廃止となった事も要因の 1 つとして挙げられる。

また、アンケート結果に着目すると、今後の取り組みに対しての質問項目すべてにおいて、「自ら取り組む」と回答した人が著しく少なく最も多い項目であっても 4 人に留まった点、「集落が取り組むならば賛成」の回答者数が全項目において最も多く、集落が抱える問題に対して自ら取り組む姿勢が弱い現状が明らかになった。

以上の事から、全住民を集めた集落活動が基本におこなわれていない現状や、集落に対する意識が低い、住民関係が希薄化している現状が見られた。一方、アンケート結果報告会では住民から集まる機会への要望や提案がされた事から、今後の集落の取り組むべき課題であると言える。

2-2. 少子高齢化と集落の担い手について

人口についてみる。図3は当研究会がおこなったアンケート調査で得られた水舟集落の人口分布であるが、少子高齢化である現状が見受けられる。アンケート回答者103人中高齢者(65歳以上)は39人(37.9%)と高い割合を占めているが限界集落には該当しない。しかしながら55歳以上に着目すると64人(62.1%)と準限界集落に該当

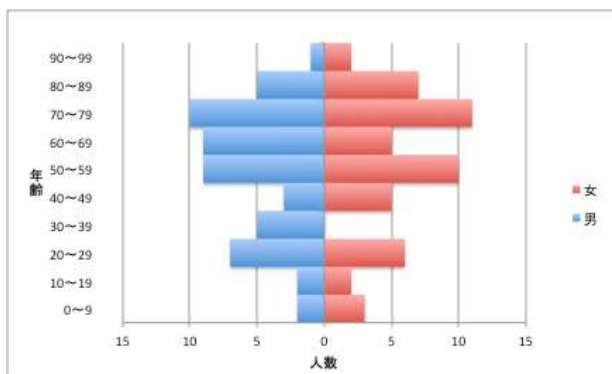


図3. 水舟集落人口ピラミッド

する割合である事が明らかになった。また、水舟集落の特徴として30歳以上50歳未満の人口が非常に減少しており、20~30年後には集落の人口が大幅減少する事が予想される。一方、20代の人口は13人(12.6%)と多く、今後この年代の流失を防ぐ事で、過疎化防止や集落活動の担い手として期待できる。しかしながら、アンケート報告会に参加した20代は2名のみであり、かつそれら2名からは「参加者の数名とは初対面である。」、「若い世代のネットワークが無く同年代の存在を知らない。」等の意見が挙げられ、集落と関わる場がない現状が見受けられた。

次に世帯に着目すると、世帯数は34世帯であり、アンケート回答世帯は33世帯である(表3)。アンケート回答世帯33世帯中6世帯(18.2%)が高齢者世帯となっており、非常に高い割合であると言える。また、高齢者世帯6世帯のうち5世帯(15.2%)は単身高齢者世帯であり、これら的高齢者世帯の孤立を防ぐ住民間での日常的見守りが必要である。

準限界集落に該当し、20~30年後には集落の人口が大幅減少する現状と、高齢者のみ世帯の高い割合等が集落の問題であると考えられる。一方、過疎化防止や集落活動の担い手とし期待できる20代の人口は13人(12.6%)と多い事が明らかになったが、集落と関わる場が無い。集落と関わる場を設け、担い手として関係を築く必要がある。

表3. 世帯構成

	世帯数	割合	高齢者を含む世帯数	高齢者世帯数
両親と子供	8	25.0%	5	0
夫婦のみ	2	6.3%	2	1
一人親と子供	4	12.5%	4	0
夫婦、子供と親(三世代)	5	15.6%	5	0
夫婦と親	4	12.5%	4	0
その他の親族世帯	3	9.4%	3	0
単独世帯	7	21.9%	5	5
合計	33	100.0%	28	6

2-3. 農業について

主な産業は農業であり、アンケートにて職業を農家と回答した世帯は33世帯中14世帯(42.4%)であった。また、アンケートにおいて耕作している面積を尋ねたところ、6割未満と回答した世帯が大半を占めており耕作放棄地が多い事が浮きぼりとなった。また震災による影響、困った事を自由記入で訪ねたところ、9世帯が放射能・風評被害について回答し、加えて「生産意欲の後退」や「自身で消費する事に対しての恐れ」を訴える人も見られた。また、アンケート報告会での意見交換の際も「作物を作る事ができるが、風評被害で売れない。」等の声も聞かれ、今後いっそう耕作放棄地が増える事が予想される。大半の世帯が農業に従事しているため、作物の販売や耕作放棄地の問題は集落の課題である。

2-4. 拠点施設について

集落には2つの施設があり、1つ目は近隣集落と共同で使う体育館兼集会・調理施設(以下、体育館と称する)、2つ目は住民が集う集落の公会堂である。それらの施設を、フィールド調査の一環として施設のハード面の調査をおこなった。

体育館については、耐久性に問題はないと見受けられた。一方、用具庫がなくホールに器具が散乱し、体育館の機能が損なわれている現状や、集まる場として利用するには、トイレの老朽化の問題があり、リフォームが必要であると考えられる。

次に公会堂については、一階が倉庫、二階が集会室となっており、階段が急勾配であるなど高齢者には使いづらい造りとなっていた。また、老朽化が進んでいる現状も見受けられ、建て替えが必要であると考えられる。

以上の事から、集落の中核施設である体育館、公会堂ともに課題が発見された。

3. 水舟集落の魅力

次に、水舟集落の魅力について記載する。フィールド調査をおこなった際、集落という小さい範囲内に、畑や田んぼ等の様々な農業風景、見はらしのいいスポット、美しい農道・林道、起伏のある地形等が随所に展開する事が明らかになった(図4)。小さい範囲にそれら環境が集約されており、様々な自然の表情に出会える環境が水舟集落の魅力であると考えられる。

また、風評被害で農業が衰退している一方で当研究会が集落の農作物を食したところ、非常においしい食材が多く、魅力の1つとしてアピール出来ると思う。

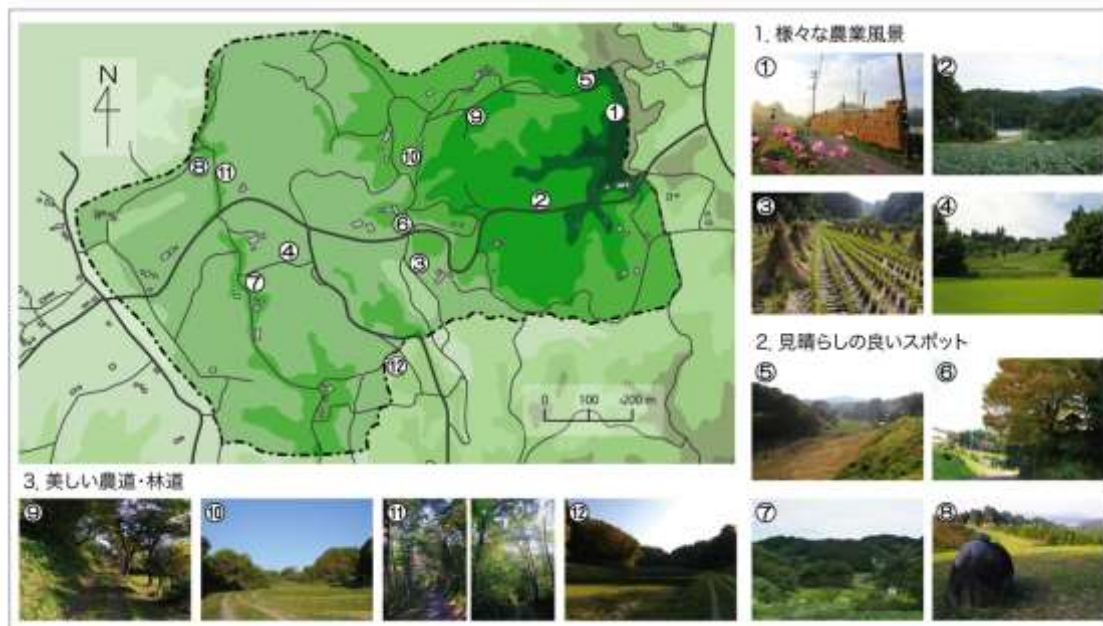


図4. 集落の魅力

4. まとめ

活動を通して明らかになった課題や魅力についてまとめる。集落の課題として、集落全体の集まりは基本的に行われておらず、集落への意識の低下や住民間の関係の希薄化が進む現状、20代の若い世代の割合が多いながらも集落への意識が低い、少子高齢化や高齢者のみ世帯の高い割合、風評被害などから起こる農業の衰退、拠点施設の老朽化が挙げられた。一方、集落という小さい範囲内に、様々な農業風景や見渡しのいいスポットなどが点在し様々な自然の表情に出会える環境。また、おいしい食材が集落の魅力として挙げられる。

以上の事から、「集落全体で集まる場所や機会を作り集落に対する意識向上を図る」「地域資源を活かし、観光客を呼び込む新たな産業を生む」事が必要であると考えます。

IV 活性化策の提案

「Ⅲ 水舟集落への活動から明らかになった課題と魅力」から、集落全体で集まる場所や機会を作り集落に対する意識向上を図る、地域資源を活かし観光客を呼び込み新たな産業を生む、の2点を目的として活性化策を提案する。

1. 集落全体で集まる場所や機会を作り集落に対する意識向上を図る

1-1. 集まる場所造りの提案 拠点施設の改修・建て替え

集落には体育館と公会堂の2つの拠点施設がある。それら施設を、フィールド調査の一環としてハード面の調査をおこなった。今後、住民が集まる場所として利用するには両施設ともに問題が見られたので改修・建て替えを提案する。

・体育館の改修提案

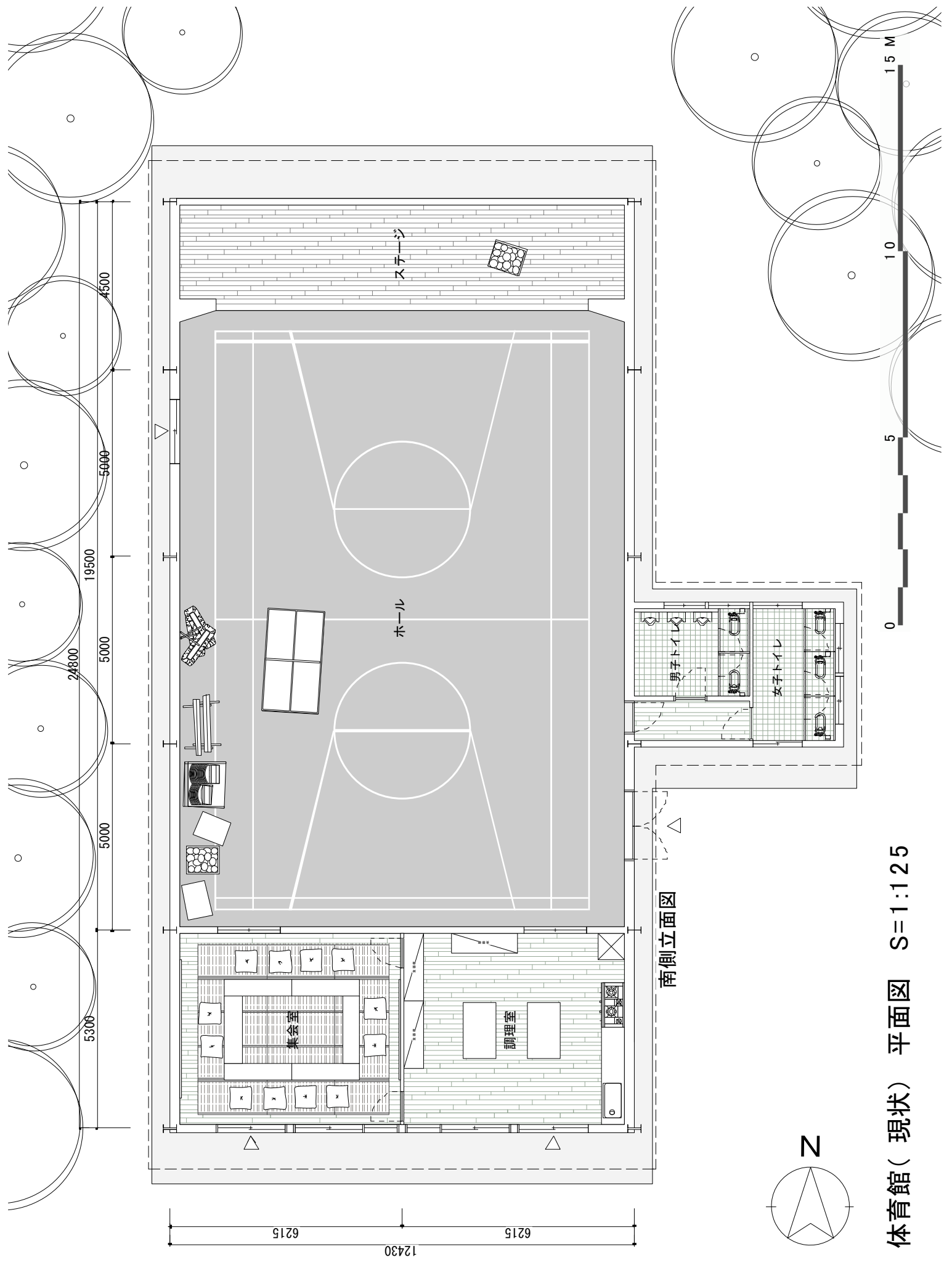
調査から、体育館については耐久性に問題はないと見受けられた。一方、用具庫がなくホールに器具が散乱し、体育館の機能が損なわれている現状や、集まる場として利用するにはトイレの老朽化に問題が見受けられた。

また、本活性化策において提案するグランドゴルフ大会（集まる機会造りの提案）や、散策マップの整備を行う上で、観光客が見込まれる。しかしながら、トイレの利用が出来る施設が集落内に無い事や、集落で観光客をもてなす際、調理施設・外部の調理場に規模や天候の問題が見られた。

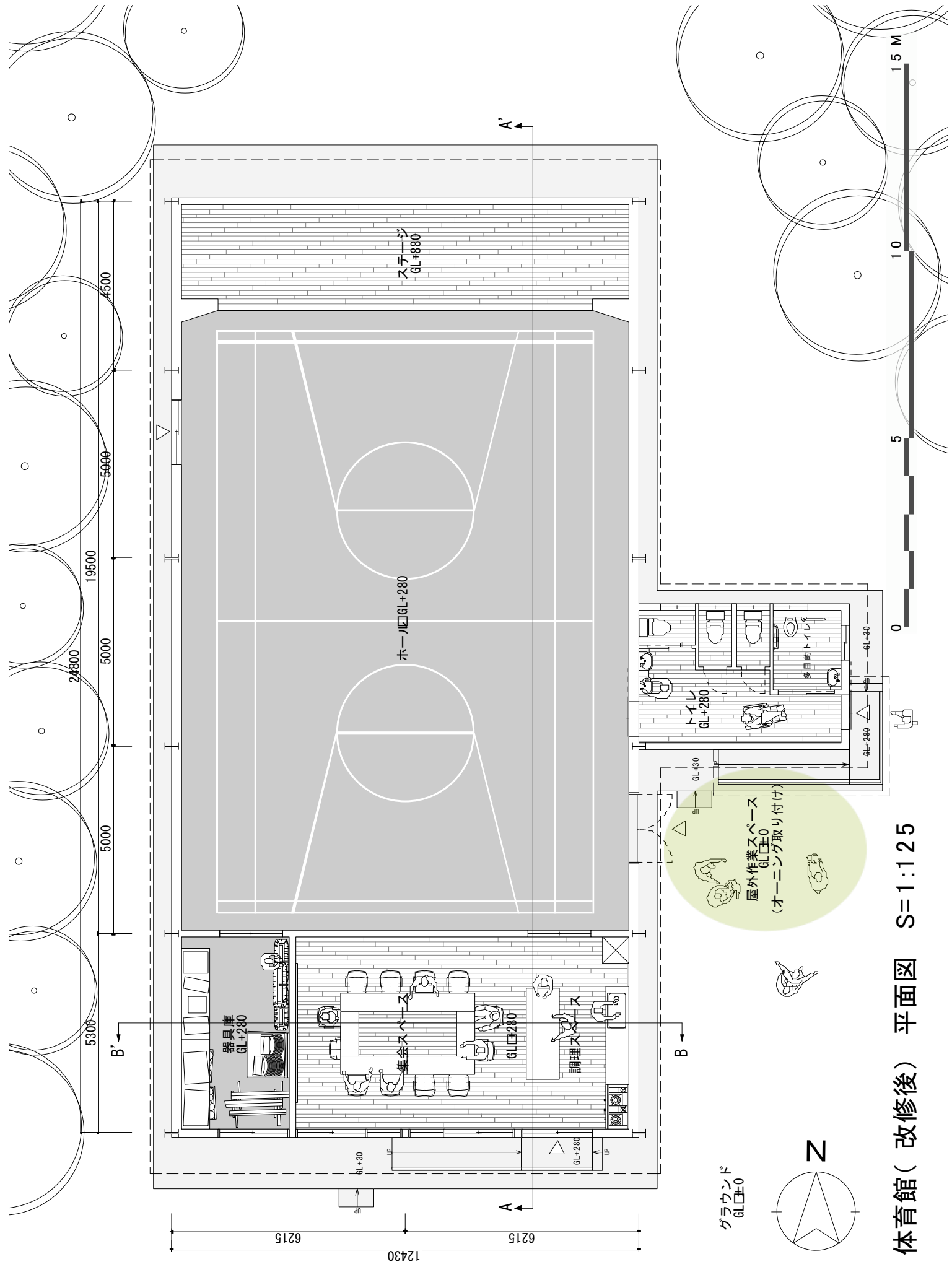
それら現状と今後の展望より、改修が必要であると考え改修を提案する。



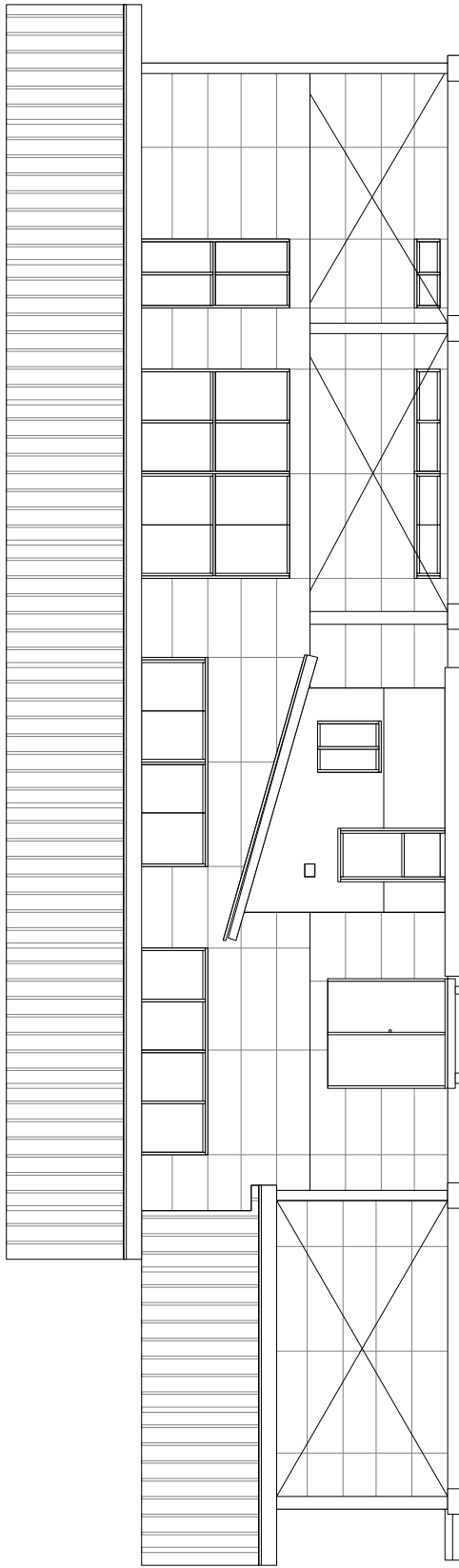
写真1. 体育館



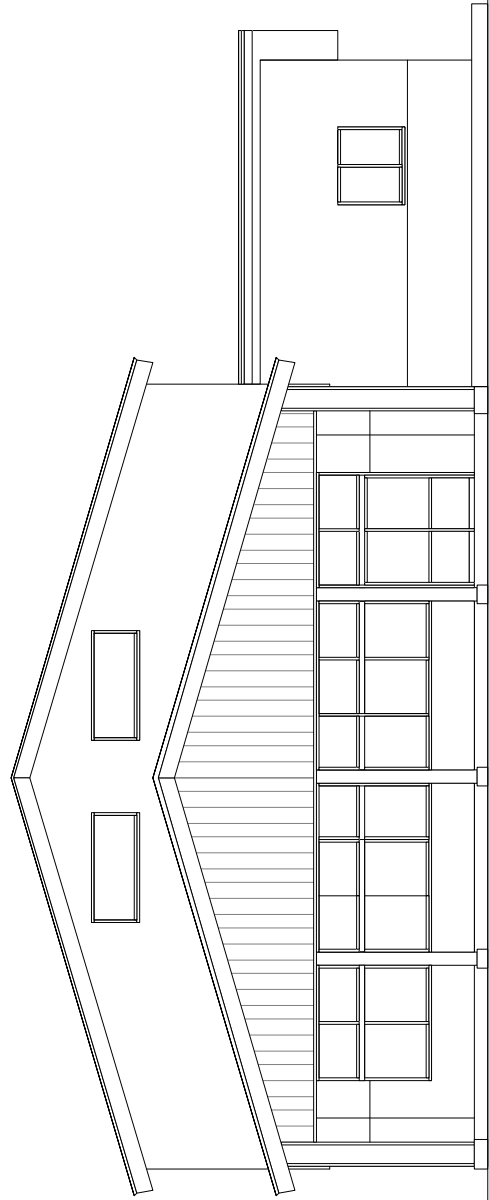
体育館(現状) 平面図 S=1:125



体育館(改修後) 平面図 S=1:125



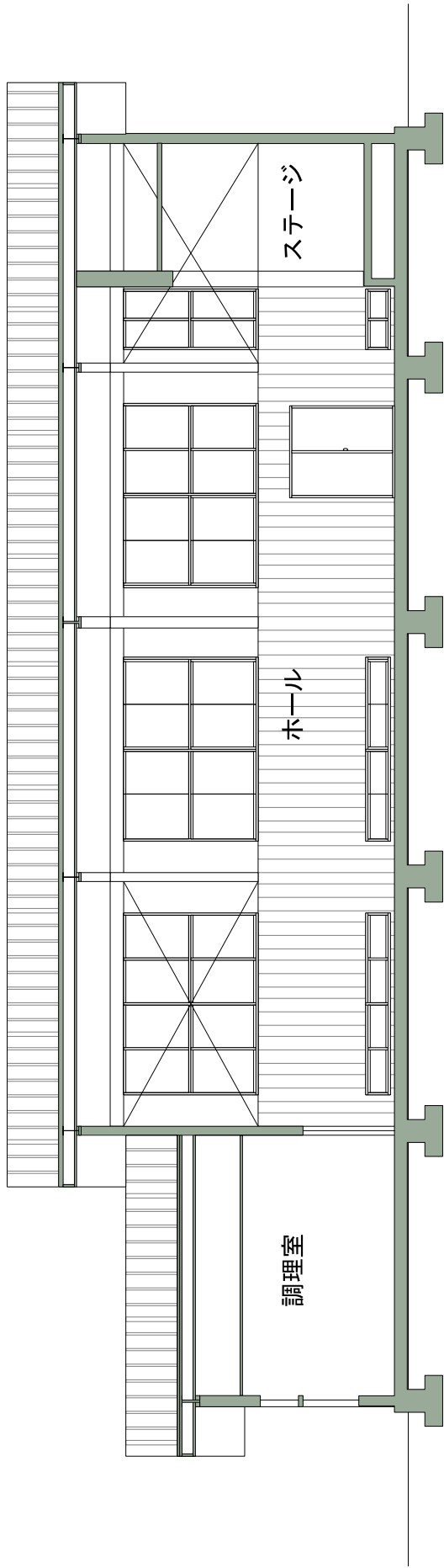
東側立面図



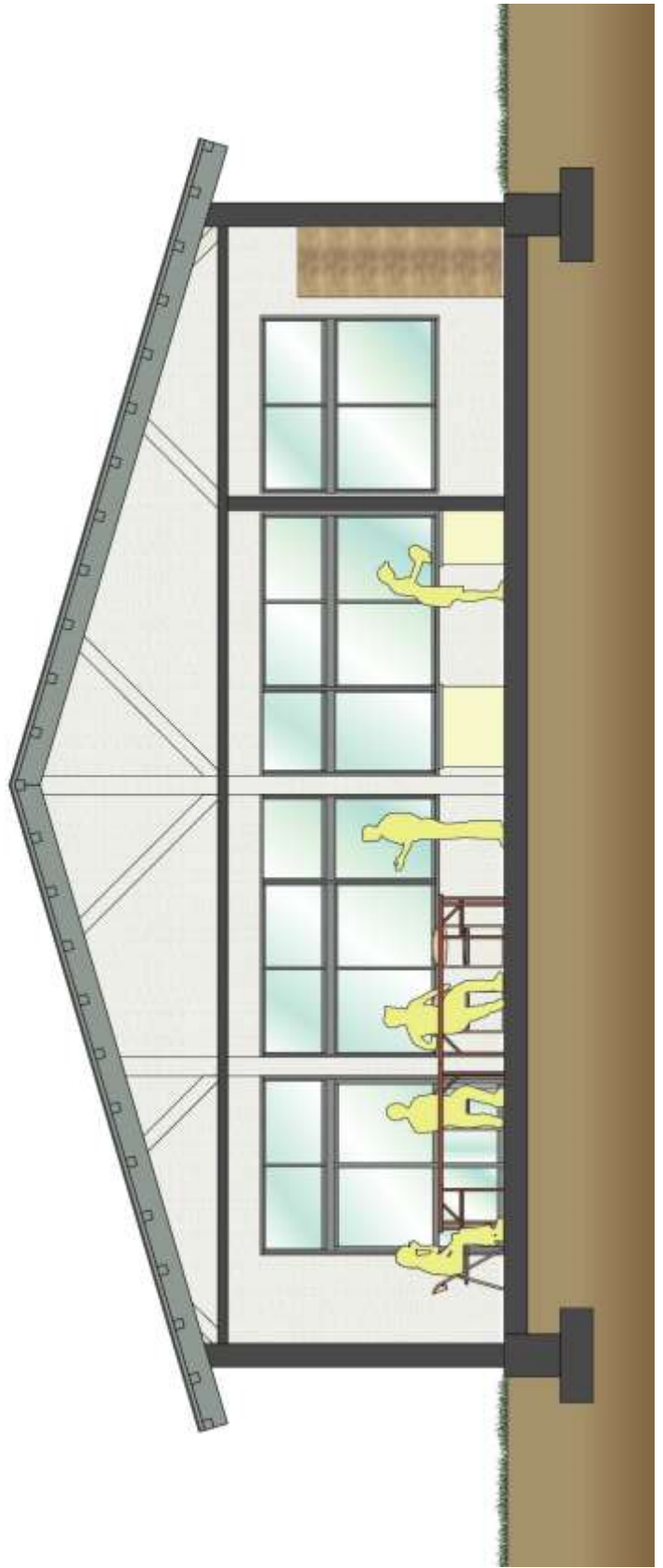
南側立面図

体育館(改修後) 立面図 S=1:125





体育館 (改修後) A-A'断面図 S=1 : 125



体育館 (改修後) B-B'断面図 S=1 : 75

・公会堂の建て替え提案

次に公会堂については、1階が倉庫、2階が集会室となっており、階段が急勾配であり、かつ手すりが無い等、高齢者には使いづらい造りとなっている。加えて、集会室は天井が低い等の問題も見受けられた。また、老朽化が進み柱や壁等にも問題が見られ、早急な建て替えが必要であると考えられる。

建て替え提案では、現在の公会堂と同敷地同規模

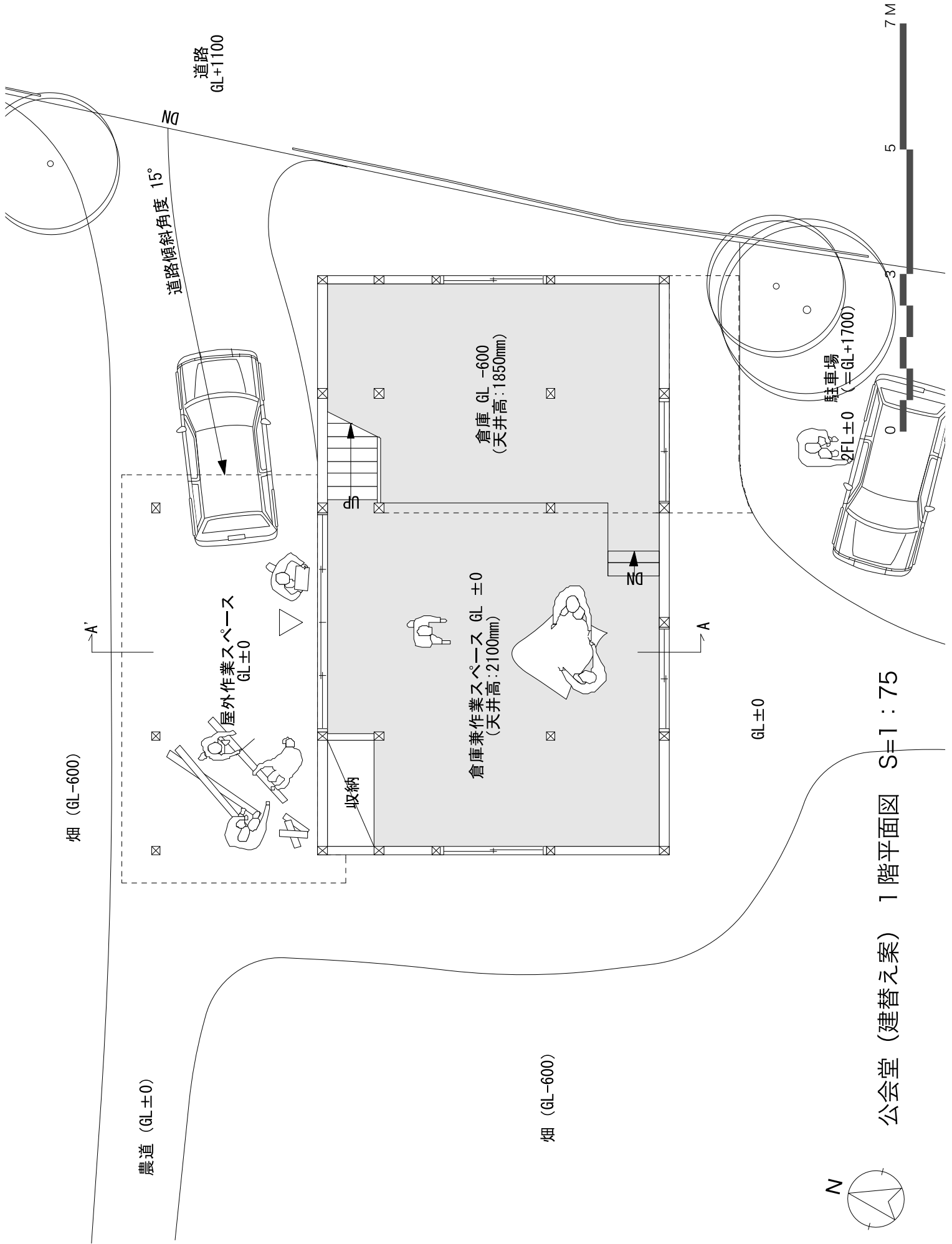
であり、バリアフリーや使いやすさに考慮した設計をおこなった。段差や天井高の問題に対しては、地形の高低差を利用し2階集会室へバリアフリーにアプローチできる動線や天井高も確保する一方、1階倉庫は用途にわけ天井高に差を設けた。また、屋根の軒を伸ばす事により、倉庫の開口部に車で直接横付けでき、雨等の天候を気にせず積み込み作業等をおこなえる環境とした。



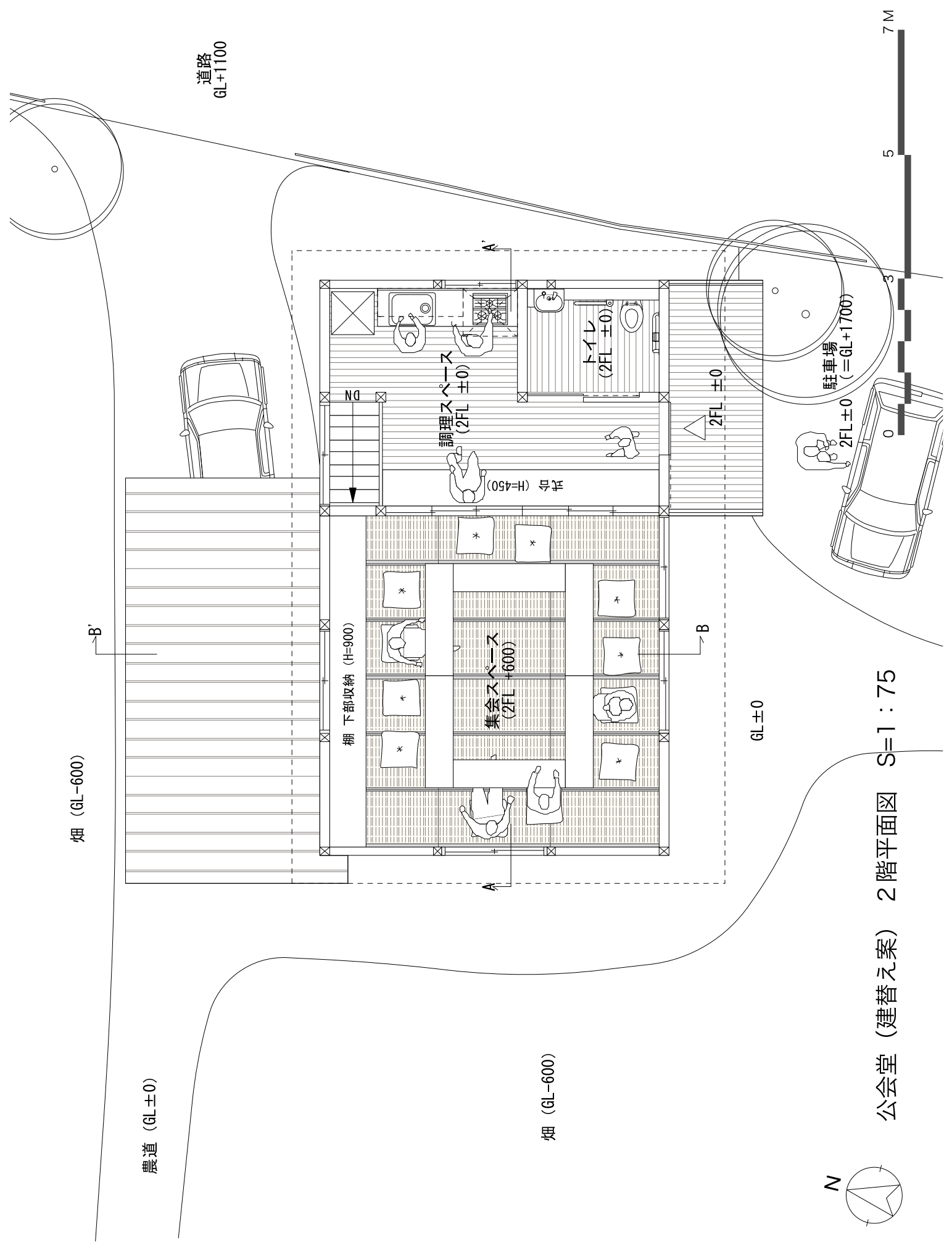
写真 2. 公会堂外観



写真 3. 公会堂内観



公会堂 (建替え案) 1階平面図 S=1:75



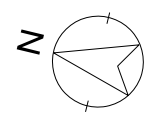
畑 (GL-600)

農道 (GL±0)

道路
GL+1100

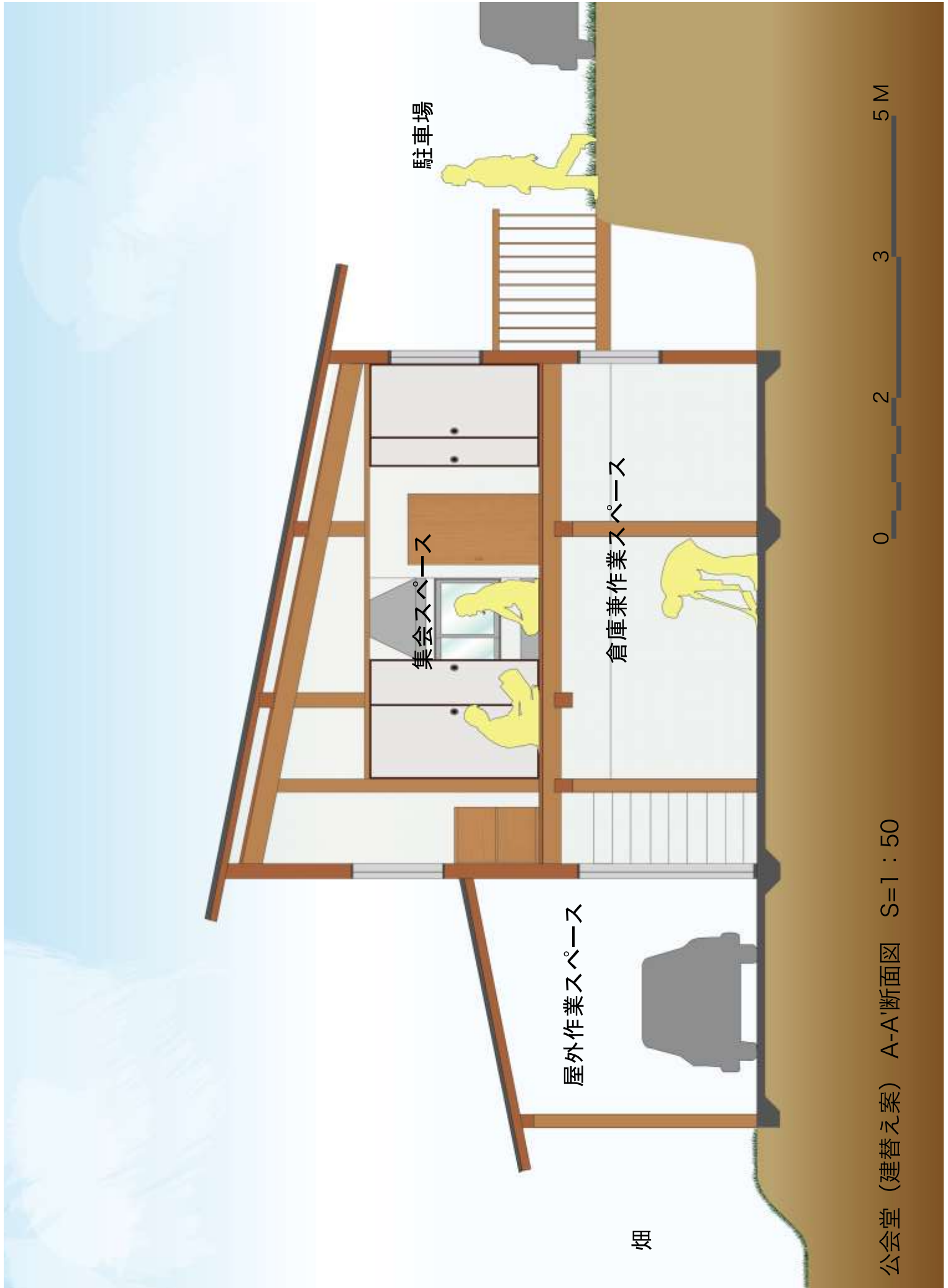
畑 (GL-600)

GL±0



公会堂 (建替え案) 2階平面図 S=1:75

0 3 5 7 M



公会堂 (建替え案) A-A'断面図 S=1 : 50

1-2. 集まる機会づくりの提案 水舟グランドゴルフ大会の企画

アンケート調査、アンケート報告会での発言より、住民の多くがグランドゴルフを趣味にしている事、またグランドゴルフを行える環境が集落内に存在する事が分かった。加えて、アンケート報告会の際には、住民から「周辺地域を水舟集落に呼び、グランドゴルフ大会を行いたい。」という意見が聞かれた。一方、社会の傾向に着目すると日本のグランドゴルフ会員数は非常に増加しており、平成7年から平成23年に着目すると約3.4倍¹増加している事から、グランドゴルフへの意識の高まりがあると考えられる。



写真4. グランドゴルフ大会のイメージ²

以上の集落からのニーズ、集落内の競技施設、競技者数の増加傾向から『水舟集落グランドゴルフ大会』を提案する(写真4)。大会の開催により、集落外から競技者を集落に呼び込む。加えて、住民の多くが趣味にしているグランドゴルフを媒体とし、同一の方向への活動(企画・運営)をする事で、集落住民の結束が強まると考える。その際、地元食材を活かした郷土料理であり、集落で人が集まる際に振る舞われる芋煮を提供する事で、集落の農作物の安全とおいしさも伝えられると考える。

1) 日本グランドゴルフ協会 HP 参照 (<http://www.groundgolf.or.jp/Default.aspx>)

2) 画像参照 (http://blog.goo.ne.jp/miyashiro_now/e/d33bb9471c2130be073c6aad1051a9c9.jpg)

2. 地域資源を活かし、観光客を呼び込む新たな産業を生む

アンケート調査やアンケート報告会から、放射能・風評被害等の影響もあり、作物の生産・販売に課題がある事が明らかになった。その課題を、集落の魅力である地域資源を活かし、観光客を呼び込み新たな産業を生む。

2-1. 地域資源を生かした散策マップの整備

フィールド調査をおこなった際、集落という小さい範囲内に、畑や田んぼ等の様々な農業風景、見渡しのいいスポット、美しい農道・林道、起伏のある地形等が随所に点在する事が明らかになった。それらは、小さい範囲に集約されており、様々な自然の表情を徒歩で見て回れる事が、水舟集落の魅力であると考えた。それら地域資源を歩いてまわるルートを記した、散策マップを作成し、観光客を集落に呼び込む。

しかしながら現状を見ると、観光客を呼び込むための地域資源には問題はないが、受け入れるための休憩が出来るスペースや駐車場等の設備がない。そのため、マップに加えて休憩スペースや駐車場を提案する。休憩・駐車スペースとして、散策ルートのものであり、かつ集落の中心付近にある歴史遺産「毘沙門堂（写真5）」を提案する。毘沙門堂には、駐車スペースとなりうる平地や、休憩所として転用が可能な鐘つき堂（写真7・8）がある。鐘つき堂は、毘沙門堂に付随する歴史遺産であるが、現在は鐘が撤去され、利用される事も無く荒れている。この鐘つき堂を東屋へと整備し休憩所に、平地を駐車場として整備する。



写真 5. 毘沙門堂



写真 6. 鐘つき堂①



写真 7. 鐘つき堂②



水舟集落 おさんぽ MAP



①



②



③



④



⑤

田園林間ルート
2.3km
(約1時間10分)

見晴らしの丘ルート
1.5km
(約45分)



- お手洗い
- だれでもトイレ
- 休憩所
- 駐車場
- 集落境界線



民沙門堂・鐘つき堂付近



①



②



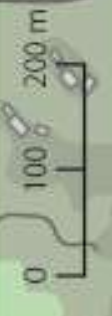
③



④



⑤





毘沙門堂 (改修案) 配置図 S=1: 350



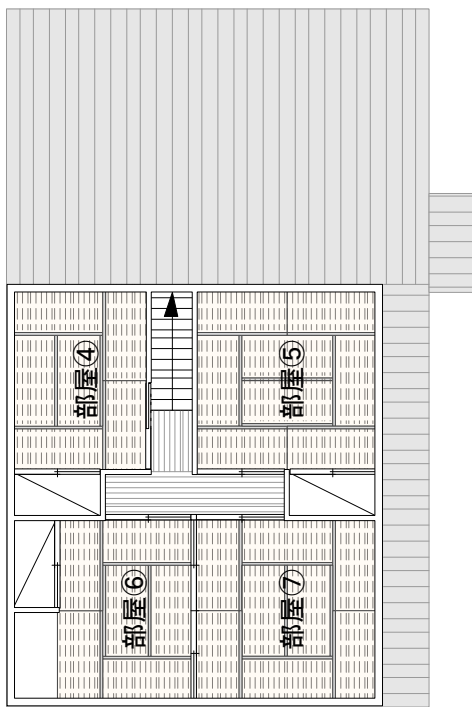
鐘つき堂(改修案) 外觀イメージ

2-2. 観光客を呼び込み新たな産業を生む

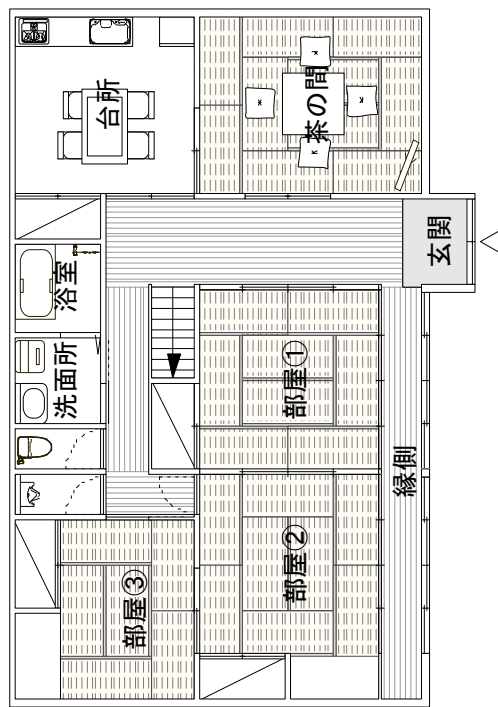
前述のグランドゴルフ大会や散策マップ等で観光客が集落を訪れる事が予想される。それら観光客に対して農家民宿を行う事を提案する。

アンケートでも農家民宿への意向を尋ねたが、住民の関心は低かった。しかし、近隣集落の農家民宿経営者の話によると、震災調査等で宿泊需要も多いと言う。また、本来農家民宿をおこなうメリットとして経済効果だけでなく、地域外から来る観光客と接する事で地域に対する愛着意識の向上が期待できる事が挙げられている。以上の事から若い世代の人口流出を防ぎ、過疎化を食い止める意味でも、農家民宿を行う事を提案する。

農家民宿を提案する上で、アンケートで得られた集落の家屋情報をもとにシミュレーションをおこなった。水舟集落の世帯人員は平均 3.5 人である。一方、家屋に着目すると主に 2 階建ての世帯が多く、また茶の間を除く平均部屋数 7.5 室であった。そのため、各世帯の平均余剰居室は 4 室となる。次に集落の平均的な間取りから、民泊を実施した際を考えると、以下のような生活となり、農家民宿が可能であると考えられる。

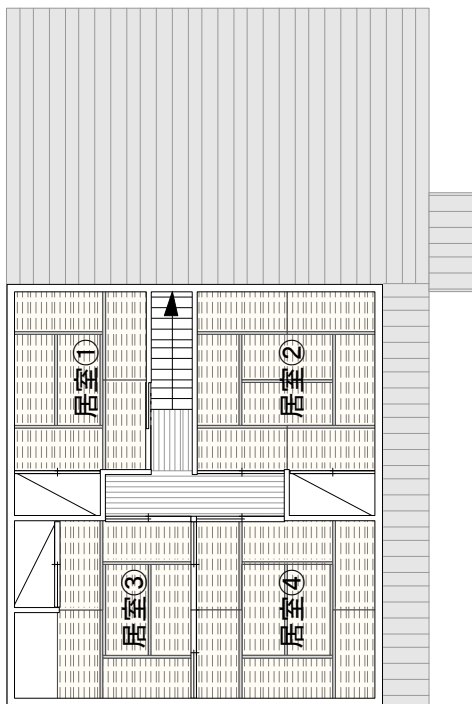


2階平面図（現状） □S=1:100



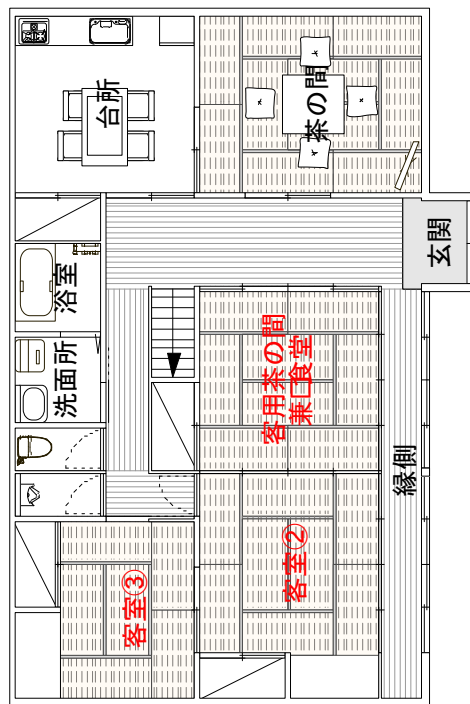
1階平面図（現状） S=1:100

※水舟集落の標準的な間取り（アンケート結果より）



2階は基本的に住人用の居室として活用

2階平面図（農家民宿実施案） □S=1:100



1階座敷を客室として活用

1室を客用の茶の間兼食堂として利用

1階平面図（農家民宿実施案） S=1:100

3. まとめ

活動を通して、過疎化や、集落への意識の低下等の課題が挙げられた。一方、集落という小さい範囲内で、様々な自然の表情に出会える環境等の魅力も挙げられた。

以上の事から、集落全体で集まる場所の整備やグランドゴルフ等を用いた活動機会などを提案した。また、過疎化防止のため新たな産業を生む必要があると考え、地域資源を活かした散策マップの整備や農家民宿等を提案した。これら活動を通し、集落に対する意識向上、しいては活性化が図れると考える。

謝辞

今回の調査にあたり、村松郁夫区長をはじめとする、水舟集落の皆様には、調査へのご協力だけでなく、芋煮会の実施等していただきまして本当にありがとうございました。深く感謝いたします。また、福島県企画調整部地域振興課の戸倉様、二本松市総務部企画財政課の朝倉様をはじめとする、福島県、二本松市の職員のみなさまにも、今回の活動を行うにあたり、様々な形で支援していただきました。本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

添付資料①

水舟区居住環境アンケート(世帯用)

世帯主氏名	ふりがな	年齢	1.男 2.女

問1 ご家族についてお聞かせ下さい。

1-1 一緒にお住まいのご家族についてご記入下さい。

続柄	年齢	性別	特記事項	続柄	年齢	性別	特記事項
本人							

1-2 離れてお住まいのご家族についてご記入下さい。

続柄	年齢	性別	配偶者の有無	今後水舟区に住む可能性	特記事項
(例) 長男	35	男	○	×	子供2人

問2 農産についてお聞きします。

2-1 所有している耕地・山林はありますか？

イ. はい (引き続きお答え下さい)

ロ. いいえ (次ページ問3へお進み下さい)

2-2 所有している耕地(水田、畑、桑畑、その他)・山林のそれぞれの規模をお聞かせ下さい。

水田	イ. 3反未満	ロ. 3反以上～5反未満	ハ. 5反以上～7反未満
	ニ. 7反以上～1町未満	ホ. 1町以上～2町未満	ヘ. 2町以上
畑	イ. 3反未満	ロ. 3反以上～5反未満	ハ. 5反以上～7反未満
	ニ. 7反以上～1町未満	ホ. 1町以上～2町未満	ヘ. 2町以上
桑畑	イ. 3反未満	ロ. 3反以上～5反未満	ハ. 5反以上～7反未満
	ニ. 7反以上～1町未満	ホ. 1町以上～2町未満	ヘ. 2町以上
その他 ()	イ. 3反未満	ロ. 3反以上～5反未満	ハ. 5反以上～7反未満
	ニ. 7反以上～1町未満	ホ. 1町以上～2町未満	ヘ. 2町以上
山林	イ. 3反未満	ロ. 3反以上～5反未満	ハ. 5反以上～7反未満
	ニ. 7反以上～1町未満	ホ. 1町以上～2町未満	ヘ. 2町以上

2枚目へとお願ひします。

添付資料②

2-3 耕地の使用状況についてご記入下さい。(所有の全耕地を10割とする)

耕作(経営)している耕地 : () 割

耕作(経営)していない耕地 : () 割

貸している耕地 : () 割

東日本大震災(放射能)の影響についてお聞きします。

2-4 震災以前の状態を10割とすると、現在の耕作面積・売り上げは何割になりますか?

耕作面積 : () 割

売り上げ : () 割

2-5 現在作っている作物をご記入下さい。

()

2-6 今後作ってみたい作物をご記入下さい。

()

問3 畜産についてお聞きします。

3-1 畜産経営を行っていますか?

イ. はい(引き続きお答えください)

ロ. いいえ

3-2 家畜の数をご記入下さい。

肥育牛 : () 頭

繁殖牛 : () 頭

養豚 : () 頭

養鶏 : () 羽

その他 () : ()

添付資料③

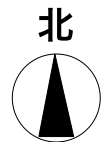
問4、ご自宅（母屋）の間取りについて

ご自宅（母屋）の間取りをおおまかにご記入ください（記入は例を参考にしてください）

<例>

2階

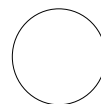
部屋	部屋
廊下	
部屋 8畳	部屋



1階

部屋 8畳	部屋	廊下	風呂 トイレ 洗面所	台所
部屋	部屋	玄関 土間		部屋

(方位)



水舟区居住環境アンケート(個人用)

世帯主氏名	世帯主との続柄		年齢	1.男 2.女

問1 水舟区での生活や印象についてお聞きします。

1-1 この土地の好きなところ・良いところ等あればご記入下さい。

()

1-2 趣味・特技や地域活動を行っていただければご記入下さい。

()

問2 今後の水舟区の取り組みについてお聞きします。

下表の左に記された、今後の水舟区において考えられる取り組みそれぞれに対して、みなさんの意見を将来性等もお考えのうえでお聞かせ下さい。

今後の水舟区において考えられる取り組み	賛成		反対	どちらでもない	わからない
	自ら取り組み	区が取り組み			
空き家の新たな利活用について					
耕作放棄地の新たな利活用について					
リンゴ・ブドウなどの、特産物の開発について					
鐘つき堂・毘沙門堂などの、歴史的な環境を整備する事について					
絶滅が危惧される伝統・技術を伝承していく事について					
道沿いに桜の木を植えるなどの、景観を開発する事について					
景観の良い場所に休憩所を設置する事について					
高齢者の集い場を設置する事について					
民宿業を始める事について					
祭り・イベントなどを開催・復活し、子ども達が戻ってくる機会を設ける事について					
耕地を共同で利用する事について					
体験農業の受け入れと、その支援を行う事について					
地区全体で獣害対策を行う事について					
運動場・体育館を整備する事について					
農作物放射能対策のための、実験ほ場の活動を行う事について					
特養が入ってくる事への関心について					

ご協力ありがとうございました。